

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 9 月 10 日 10:05 AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～39,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 39,600～42,000 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 16,900～18,700

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～103.546

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます。それは 20 年 3 月以来の 4 年サイクル底に相当します。

8 月 5 日安値からの上昇が、第(4)波中 B 波に当たるのか、第(5)波による上昇に入ったかを判断するにはまだ少し時間が必要です。ただいずれにしても、25 年に日経平均は 42,426 円を上抜き、最高値を更新する可能性が高い、とみています。

半導体、テック、自動車などの主力株には、2 月～4 月に高値を付けたものが目立ちます。それら銘柄に対し、6 カ月信用期日接近に伴う売り戻し圧力が残るなか、日経平均は上値追いつきとばかりでしょう。

需給面に関していえば、9 月 13 日のメジャーSQ を境に建玉整理は相当程度進むと思われます。ただし、19 日未明(日本時間)の米 FOMC 結果公表、20 日昼頃には日銀会合結果発表、27 日には自民党総裁選の投開票があります。これら重要イベントが目白押しの 9 月を通じ、マーケットは様子見ムードが続くかもしれません。



【日足 エリオット波動分析】

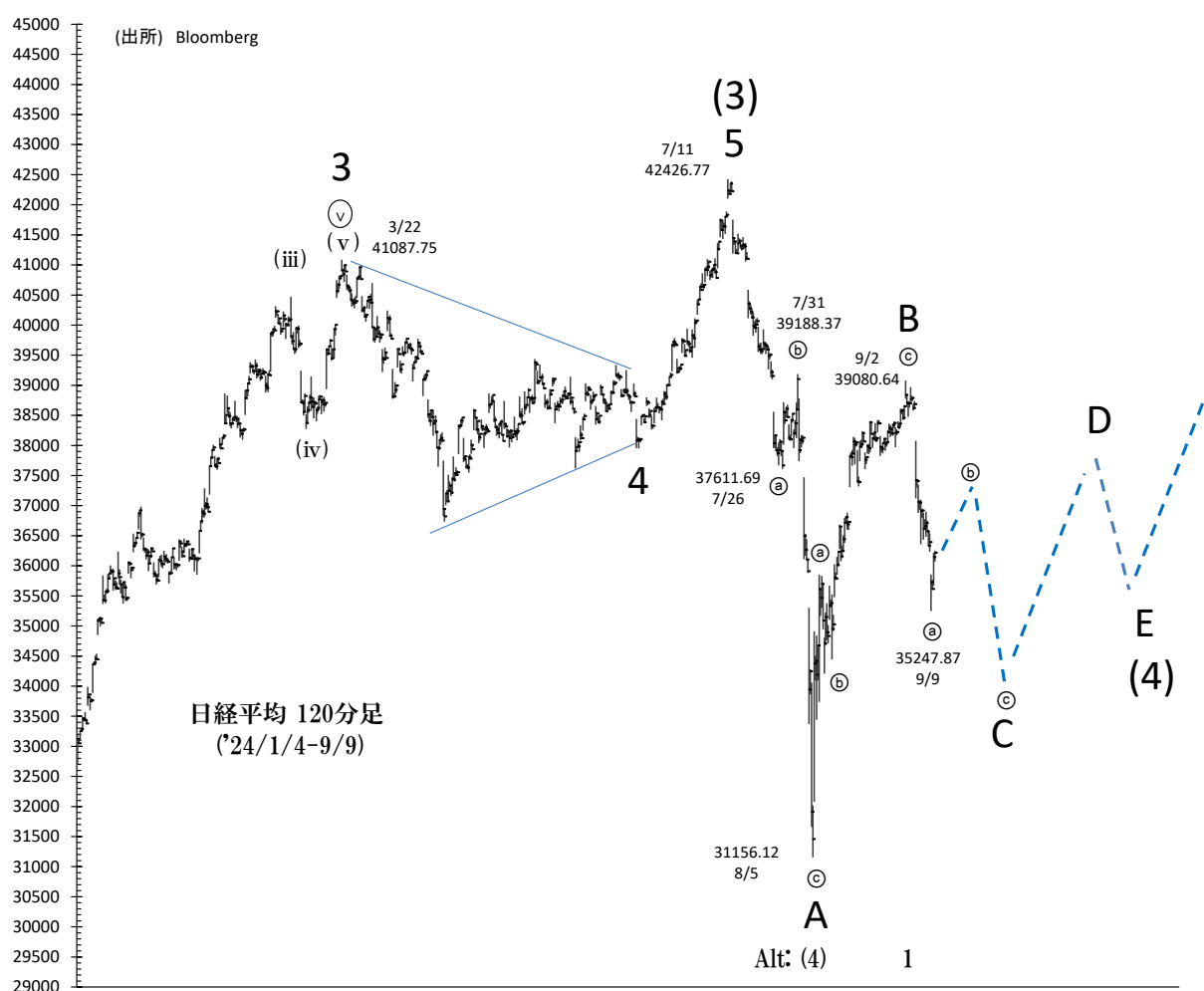
日経平均予想 EPS は 8 月 26 日に 2457.1 円となり、初の EPS=2500 円が視野に入っています。

EPS2500 円、PER18 倍と仮定すると 4 万 5000 円という水準が得られますが、それは 25 年の日経平均ターゲット候補として要注目です。

39,080 円(9/2 高値)からの下げは(4)-C 波に位置付けられます。(4)波全体としては[トライアングル]のような、保ち合いパターンを形成する公算があります。

あるいは、31,156 円を起点とする上昇は第(5)波であり、足元の下げは(5)-2 波かもしれません。

この場合の日経平均は、(5)波-3 波の上昇によって年内にも 7 月高値を更新する可能性があります。



【時間足 エリオット波動分析】

上チャートは、第(4)波を[トライアングル(A-B-C-D-E)]とみなし、その仮定に基づいた展開イメージを示しています。

39,080 円(9/2 高値)以来、(4)-C 波による下落局面が進行中です。なお、この C 波は三波構成 (a-b-c) です。

9 月 9 日には一時 35,247 円まで下げ、この時点で下げ幅は 1100 円を超えました。もっとも大引けにかけては戻り歩調を辿り、終値(36,215 円)は 175 円安とこの日の高値圏で決まりました。C 波-a 波は完成し、足元は C 波-b 波の戻りとみられます。

C 波-b 波によるリバウンドのメドは[36,711 円-37,616 円](a 波の下げに対し 38.2%-61.8%戻り)まで続き、その後は C 波-c 波による下落があるでしょう。

最終的に C 波は、8/5 安値から 9/2 高値までの上昇(B 波)に対し、50%-61.8%を引き返すとみられます。これに基づく、C 波の下値レンジとして[35,118 円-34,183 円]が想定されます。

NYダウ



【日足 エリオット波動分析】

22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇は(B)波とカウントされ、(B)波のパターンは[ダブル・ジグザグ (W-X-Y)]を想定しています。

23 年 10 月安値(32,327ドル)からの上昇は Y 波に当たります。**Y 波の上値メドは[42,118ドル]**です。

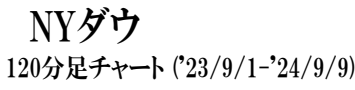
[42,118ドル]…(B)波中、W 波と Y 波の上昇幅が 1:1.618 になる水準

Y 波の編成は [ジグザグ(a)-(b)-(c)]になります。

さらに 37,611ドル(4/18 安値)からの上昇を Y 波中(c)波とみることができ、この(c)波を筆者は、上昇局面の最後に現れる[エンディング・ダイアゴナル]とみています。

(c)波完成を以て(B)波全体も完成するわけですが、その後は(C)波による調整が続くことになります。

(C)波は 22 年 10 月安値を目指す、大きな下降波になることが想定されます。



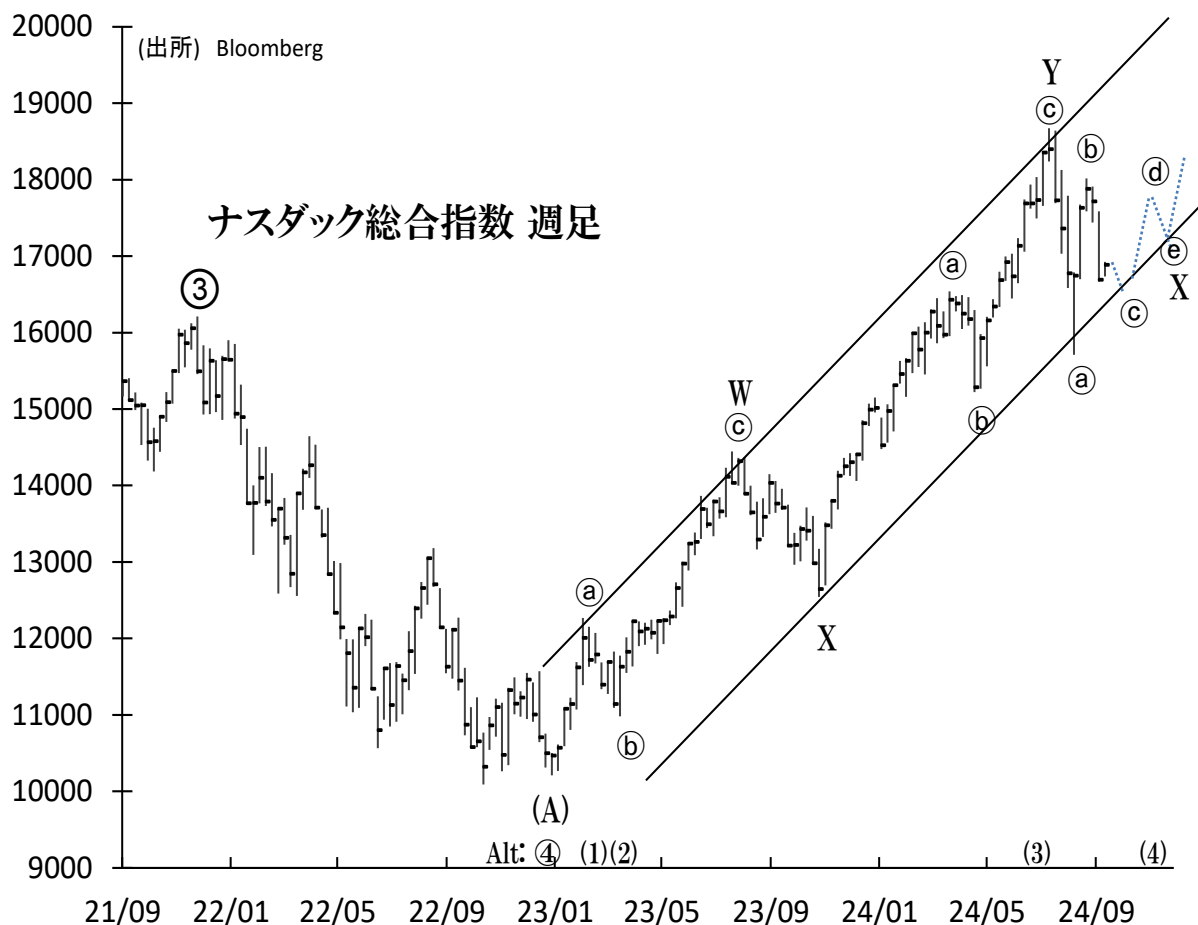
23 年 10 月安値・32,327ドルからの Y 波は、(a)-(b)-(c)[ジグザグ]編成となります。37,611ドル(4/18 安値)以来、(c)波による上昇とみられます。

[エンディング・ダイアゴナル]は第ⅰ波～第ⅴ波から成り立ち、各々は三波構成(㉠-㉢)となります。
38,499ドル(8/5 安値)からは、(c)波中第ⅲ波の上昇とみられます。

41,585ドル(8/30 高値)からはiii波中の㊸波による調整とみられます。この㊸波の想定下値レンジは、**[40,042ドル-39,678ドル](㊶波の上昇に対する 50%-61.8%押し)**です。9月6日には一時40,297ドルまで下げています。

6

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

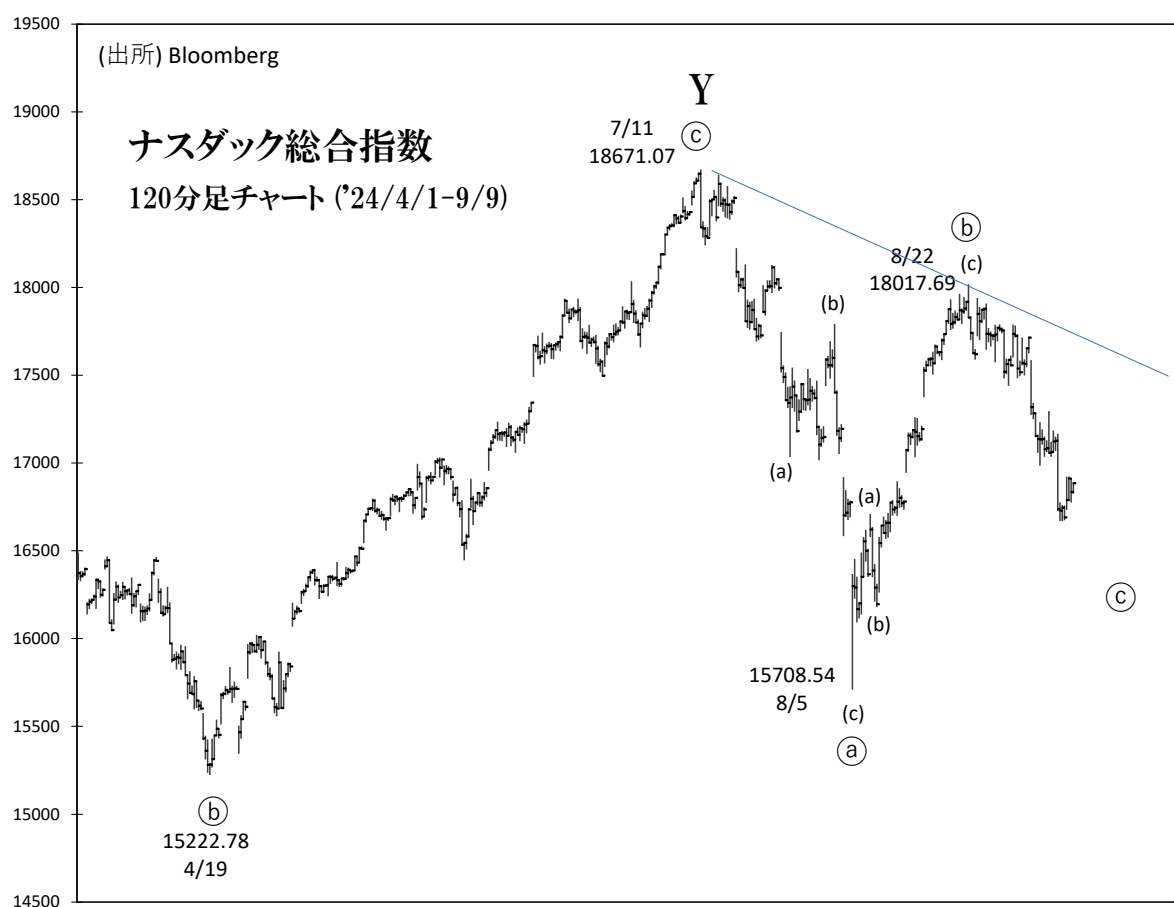
22 年 12 月安値(10,207)以来、(B)波による上昇が進行中です。この(B)波は[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]を形成し、それは 25 年前半まで続くでしょう。

18,671(7/11 高値)より、X 波による調整が進行中とみられ、X 波は[トライアングル]を形成中のようです。トライアングルによる調整は、数週間～数カ月続くでしょうが、それを終えると 25 年にかけて Z 波による上昇が始まるでしょう。

この見方は 23 年 10 月安値(12,543)と 24 年 8 月安値(15,708)を通る、上昇サポートライン※を維持する限り有効です。

※9 月第 2 週(9/9～13)のサポートライン水準…[16,099]

その反面、サポートラインを終値で明確に下抜くと、18,671(7/11 高値)から既に(C)波による下落トレンドに入っているという見方が台頭します。この場合のナスダックは、中期的に[12,547]を目指す可能性があります。



【時間足 エリオット波動分析】

18,671(7/11 高値)から 15,708(8/5 安値)までを三波構成による㉓波とみなすと、そこから 18,017(8/22 高値)までは、やはり三波構成による㉔波とみることができます。

週足分析で書いたように、X 波は[トライアングル](㉓-㉔-㉕-㉖-㉗)を形成中のようです。

9 月 6 日に一時 16,668 まで下げましたが、それは[16,590](㉔波の 61.8%押し)に近いものでした。目先の下値試しが続くようなら、[16,202](㉔波の 78.6%押し)を打診するかもしれませんが、15,708 を一時的にも下回ることはいずれです。

現行㉕波を完成すると、次は㉖波による上昇となりますが、7 月高値と 8 月高値を通るレジスタンスラインが上限です。

なお 18,017 を上抜くと、Z 波による上昇スタートが示唆され、それは過去最高値更新につながるでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

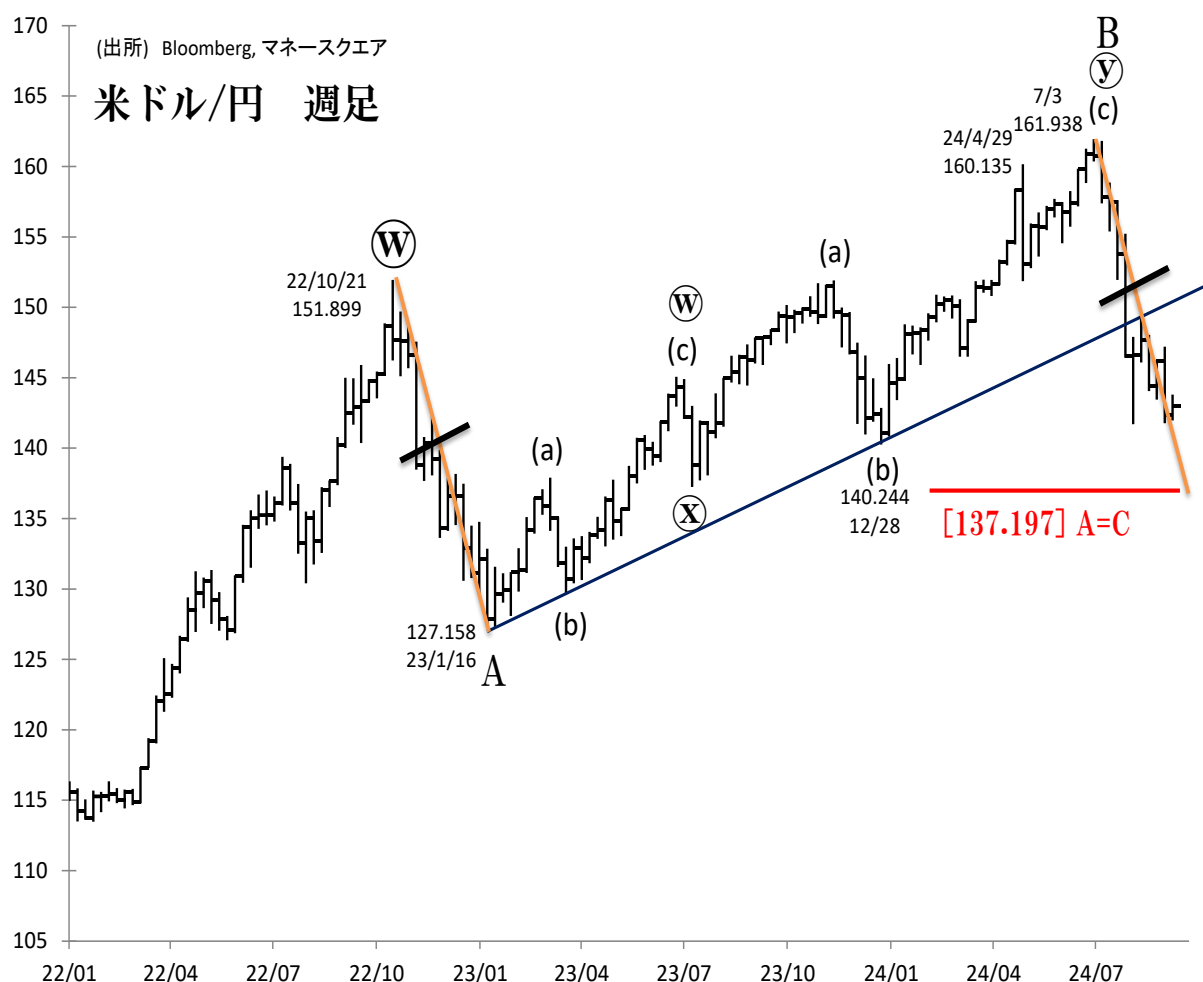
2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安⓪波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこからはⓧ波の「円高局面(トレンドではない)」が進行中です。このⓧ波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場(※)を形成していくでしょう。

161.938円(7/3)は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。それはⓧ波中 B 波高値(イレギュラートップ/不規則天井)に位置付けられ、この波動カウントによれば、いまはⓧ波中 C 波によるドル安・円高が進行中です。

22年10月以来のⓧ波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。①の水準は134.635円(9月)です。

一方②の場合には、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指し、より大きなドル安・円高になることが見込まれます。②の水準は115.010円にあります。



【週足 エリオット波動分析】

22 年 10 月 (151.899 円) からの A(↘)-B(↗)-C(↘) 編成において、23 年 1 月 (127.158 円) からの B 波は 161.938 円 (7/3) を以て完成しました。B 波終点の高値は A 波の始点高値を上回り、不規則天井 (イレギュラー・トップ) を形成しました。

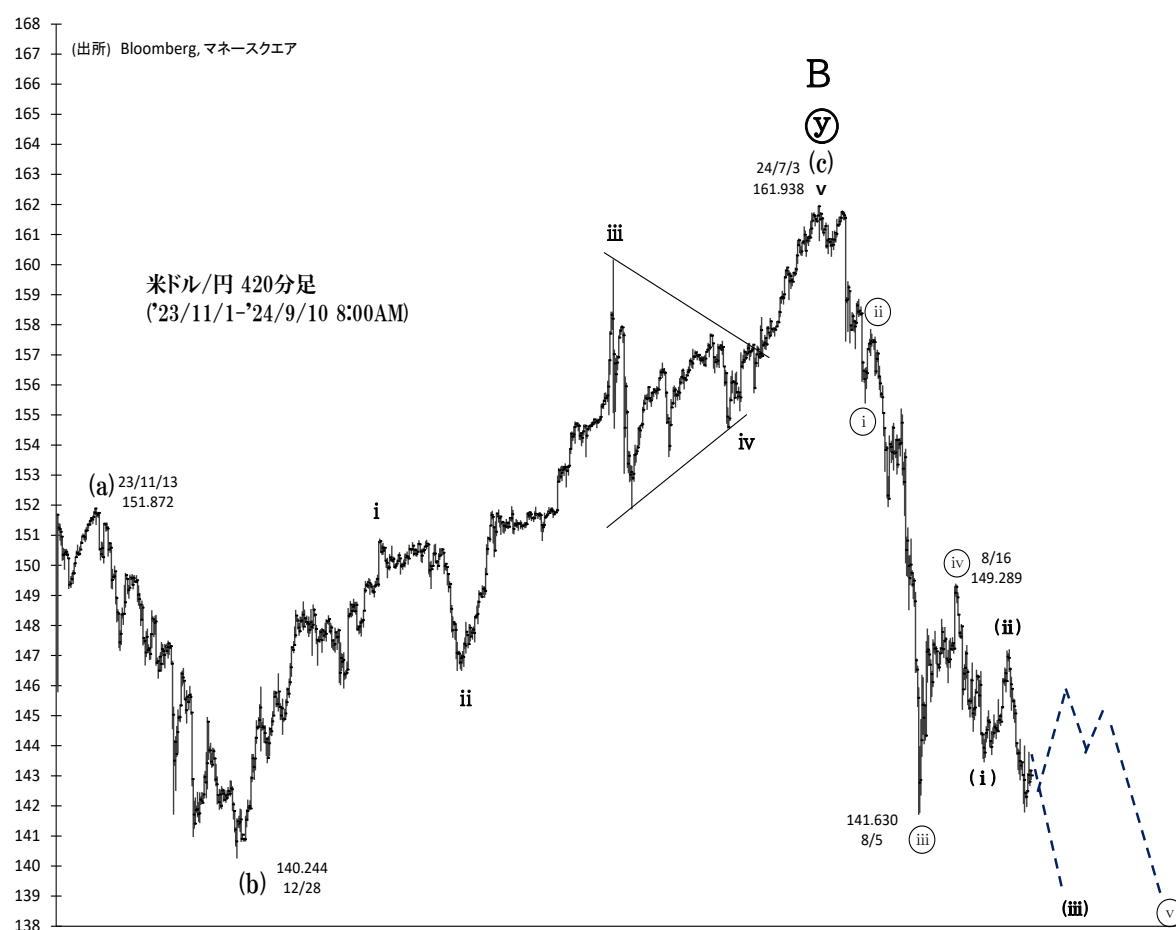
161.938 円 (7/3) からは、C 波によるドル安・円高です。

C 波の長さについては、A 波が有効な「ものさし」になります。

A 波の長さは 24.741 円 (およそ 25 円) でしたから、C 波の長さも同様と考えると、**137 円辺り (厳密には 137.197 円) が C 波のターゲット**です。

なお 137 円を下抜くケースでは、先述した [134.635 円] のほか、[131.358 円] に注目です。

[131.358 円]…A 波の長さ (24.741 円) $\times$ 1.236 = C 波の長さ (30.579 円)



【時間足 エリオット波動分析】

9月6日にドル/円は一時141.709円まで下落し、141.630円(8/5)に接近しました。

引き続き、目先は二つのオプションがあります。

①149.289円(8/16)以来、マルv波によるドル安・円高が展開中。足元はマルv波中第(iii)波であり、目先のにも141.630円を下抜くことでしょう。それは本来、スピード感を伴う波動であるため、今週にも昨年12月の140.244円を下抜くかもしれません。

②141.630円(8/5)以来のマルiv波は[トライアングル]を形成中です。このもみ合い完成までには今後2～3週間が必要となりそうです。その後はマルv波によるドル安・円高が始まることになります。

いずれにしても、基本的にドル/円が141.630円(8/5)を下抜くのは時間の問題でしょう。

※9月マンスリー・フォーカス(9/5発行)では、長期サイクルに基づき2032年までのドル/円見通しを書いています。こちらも併せてご覧ください。

投機筋による円買いポジション増加中

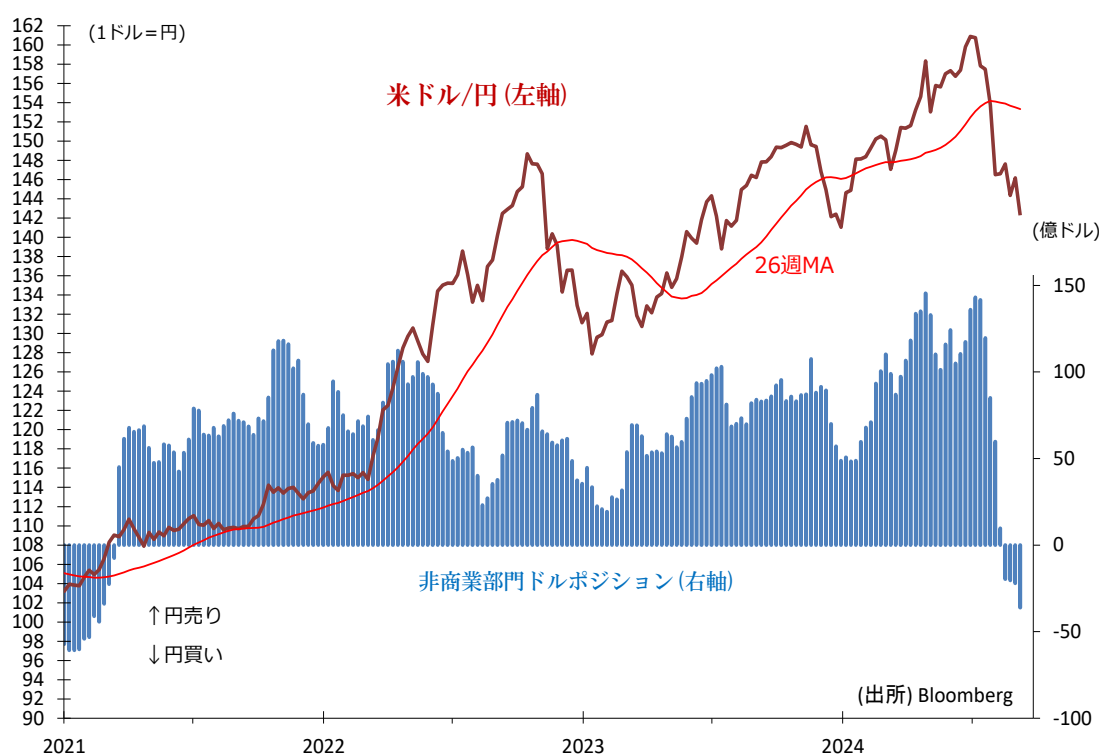
IMM 通貨先物市場での非商業部門(投機筋&ヘッジファンド)のドルポジションは、7月2日時点で過去最大級の円売り越し(18.42万枚、142.6億ドル)でしたが、8月13日には3年5カ月ぶりに円買い越しに転じました。

9月3日時点の投機筋ポジションは、4.11万枚(35.3億ドル)の円買い持ちです。円買いポジションは4週連続で増加しています。

筆者の観測では、投機筋は26週MAをドル/円の強弱判定の目安としています。

ドル/円が今後も、26週MA(153.100円)を下回っている間は、投機筋によるドル売り・円買いの動きは継続する可能性があります。

数年間の「円キャリーによる円売り」から、7月の「円キャリー巻き戻し」を経て、8月からは「今後の円上昇を期待しての円買い」という新たな局面に入っていると思われます。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックス(ドル指数)はⒺ波による下落局面にあります。

23 年 7 月安値(99.578)を起点とする B 波は、1 年間かけて[トライアングル]を完成し、現在は C 波によるドル安が進行中です。8 月 26 日には一時 100.534 まで下げましたが、これは 23 年 7 月 27 日以来 1 年 1 カ月ぶりドル安です。

足元はもみ合いが続きますが、ドル安基調自体は今後も続き、**23 年安値(99.578)を下回るのは時間の問題**とみられます。

99.578 を下回ってからのドル指数ターゲットは[92.148](N 計算値)です。

Ⓔ波は最終的に、[90.930]、[89.209]を試す可能性があります。前者は A 波と C 波が等しく下がる水準、後者は 21 年 1 月に付けた、Ⓐ波のレサラー・ディグリー(4)波安値です。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
